

♪ シニア便り ♪

新年度を迎えるにあたって

副団長・常任指揮者 中村 暁生

定期演奏会の成功に向けて

第19回定期演奏会実行委員 鴨田 麻美

チューニング広場

・管弦楽法 つまみ食い その3

吹奏楽の楽器の使い方 ~基礎の基礎~

副指揮者 石井 邦紀



第20号 (2012年3月発行)

発行 北海道シニア吹奏楽団・事務局
編集 シニア便り・編集部

新年度を迎えるにあたって

副団長・常任指揮者 中村 暁生

一、はじめに

平成二十三年度の団の活動は、皆様の団に対する愛情とご協力に支えられて略それぞれの目的を達成して終了することが出来たものと思えます。役員、定期演奏会実行委員の方々を始め団員皆様に心からお礼申し上げます。いくつかの懸案事項はありますが新年度において着実に改善していきたいと考えていますので、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

二、二十三年度を振り返って

定期演奏会をはじめライオンズクラブ、シルバーハイツでの演奏はそれぞれ成果を挙げて終わりましたが、演奏力の面で課題を残す一方、定期演奏会直前のライオンズクラブでの演奏では多くのご苦労をお掛けしましたが、二正面への柔軟な対応力の存在を確認し、また練習時、数多くの試奏を通して見せた初見の力、定期演奏会でのアンサンブルなど確実に団全体の演奏力が上がってきていることは皆様も実感していることと思えます。また、北部方面音楽隊での技術研修を通じて音色や奏法に著

しい向上を見せた方々もおられるということは特筆すべきことであると感じています。

一方、事務局の着実な調整と業務処理、楽器整備と管理、「シニア便り」の発行など団の運営を円滑にしておさっている方々、楽譜の整備管理を確実に進めてくれていらっしゃる方に改めて御礼申し上げます。

団費納入一〇〇%、他の団では考えられない数字、練習時の準備や後片付け、打楽器のセッティングや撤去、誰かの命令や指示でなく動いている皆様の姿を見る度に「大人の集団」としての静かではあるが強い団結力を痛感し、これが団の無形の大きな財産になっていることを確信しています。

三、新年度の課題

(一) 現在の練習場は事務局と関係者の多大な尽力により確保され、充分な広さがあり楽器庫が隣接していること、使用料が比較的安価であるなど利点も多いのですが、利用時間に制限があること、残響が大きすぎることで、冬期間の暖房が不十分である等の問題点もあり改善について検討する必要があると思えます。

(二) 演奏力の向上は団にとって永遠の課題であり、皆様の不断の努力によって着実に向上していることは実感していますが、僅かなヒント

で格段に進歩することもあります。昨年度に引き続き北部方面音楽隊での技術研修を行いますので多くの方が参加されるよう希望いたします。年齢に関係なく人の能力は進歩拡大する余地を充分持っていると思うからです。

(三) 今年の第十九回定期演奏会は実行委員会の計画に従って順調に準備が進められていますが、来年は節目となる創立二十周年を迎えます。既に担当される方も決まっておりますが、意義のある記念行事、記念演奏会とするため団員皆様の一層のご協力をお願いいたします。

四 おわりに

団設立の趣意書の一節に「音楽は生涯の友」とあります。私たちシニア吹奏楽団の存在意義をこの言葉は端的に表しています。

新年度もいくつかの課題がありますが、皆様と共に音楽をする喜びを共有しながら半歩づつでも団が進んでいくために微力を尽くしたいと思います。

定期演奏会の成功に向けて

第十九回定期演奏会実行委員

鴨田 麻美



二〇二二年度第十九回定期演奏会はホルンパートの実行委員会で準備を進めています。メンバーは、勸米良実行委員長、伊藤(総務担当)、松浦、池内、鴨田、顧問として中村副団長にも加わって頂き幅広い年齢層で構成されています。四月からは、第二十回定期演奏会実行委員予定のクラリネットパートから山田さん、阿部さん、石田さん、ステージマネージャーとしてトロンボーンの上浦さんにも加わって頂く予定です。昨年の第十八回定期演奏会后、団員の皆様のご意見やご希望をお伺いしながら試奏を繰り返して来ましたが、今年は吹奏楽の素晴らしさを団員の皆さんに再認識して頂くことも含めて、例年に比べて多くの試奏曲を選び四か月程を費やしましたが、二月中旬には演奏曲も決まり現在練

習を進めているところです。

ここで第十九回定期演奏会のコン
セプトやこれまでの経緯についてお
知らせします。

どんな演奏会を目指すのか、

そして選曲について

実行委員会ではかなりの時間を使
って目指す演奏会について話し合い
を重ねましたが、最終的には来場者
の年齢層や、何を期待して会場に
来て下さるのかを最優先に考え、皆
さんが一度は耳にしたことがあり、親
しみがあり、そしてシニア楽団らし
い曲を選ぶことになりました。曲目
は、既にご存じと思いますが、改め
て紹介します。

第一部（クラシック・ステージ）

- ・ ハイデックスブルグ万歳
 - ・ 美しく青きドナウ
 - ・ 王宮の花火の音楽
- 第三部（ポピュラー・ステージ）
- ・ ハイ・ジュード
 - ・ イパネマの娘
 - ・ シェルブールの雨傘
 - ・ 十三（とさ）の砂山
 - ・ ウェスト・サイド・

ストーリー・メドレー

アンコール

- ・ 口笛吹きと犬
- ・ 時計台の鐘

（演奏順は変わる場合があります）

第二部の小学校については、昨年
まで五回共演して頂いた札幌市立旭
小学校金管バンドとは一応の区切り
をつけ、新しい小学校を考えていま
す。この「シニア便り」が発行され
る頃には学校が決まるでしょう

また、第三部のお楽しみクイズも
これまでとは趣向を変えて、音を聞
いて楽器名を当てもらう「楽器当て
クイズ」をやってみようと云うこと
になりました。音を出さない楽器を
持っている方々にも音を出している
かのように見せかける騙しの演技も
お願いすることになるでしょう。

予算について

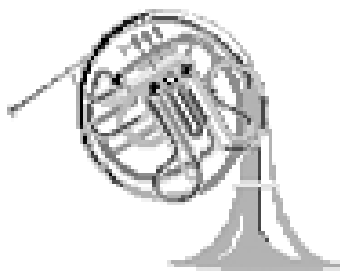
景気低迷が長期に渡って続してい
る中では広告もなかなか集まらない
厳しい状況を想定し、最低限の収入
による予算案を作りました。
詳しい内容につきましては、四月の
総会で皆さんにお示ししますが、支
出について少しでも節約できないか
頭を悩ませているところです。

今後の予定

定期演奏会は十月十四日です。ま
だまだ時間はあるようですが、時の
流れは速いもので気が付けば直ぐに
その時は来てしまいます。早め早め
に課題を解決していきたいと思っ
ております。

今後は団員の皆さんへの広告募集
のお願い、チラシ、プログラム、チ

ケットの作成等、やらなければなら
ないことは沢山ありますが、決まり
次第随時お知らせいたしますので、
ご協力をよろしく願います。
最後になりましたが「何事も経
験！」の一言で実行委員長の勸米
良さんから直々にご指名を受けて書
かせて頂きました。文章を書くこと
が苦手な未熟者のため、乱文でお見
苦しいこととは存じますがご容赦く
ださい。



チューニング広場

管弦楽法つまみ食い その3

吹奏楽の楽器の使い方

基礎の基礎

副指揮者 石井邦紀

今回は弦楽器（ヴァイオリン属）の
奏法について書きましたが、今回は
楽器を決定付ける「音色」そのもの
の特徴について触れてみたいと思

ます。併せて、弦楽器と打楽器の音
色についても触れておきます。
まず、楽器個々の音色はどうしてで
きるのか？ 楽器の音色を決定づけ
る要素としては「倍音構成」と「形
成音」が考えられます。

1. 倍音構成

倍音そのものについては、以前に
資料としてお配りしていますので省
きます（ホームページ団員専用音
楽資料に掲載）。楽器の音色は楽器
固有の倍音構成によって大凡決まり
ます。音色と倍音構成については以
下の様になります。

- (一) 倍音が存在しないもの（音叉
や電子音等で純音と呼ばれる。
フルート属もこれに近い）
 - (二) 低次倍音が強いもの
 - (三) 高次倍音が強いもの
 - (四) 独特の倍音構成を持つもの
 - (五) 非規則的に倍音が鳴るもの（打
楽器等が鳴らす音で雑音と呼ば
れる）
- 以上のうち、大抵の楽器は(一)・
(四)に属します。それらの特色は次
のようになります。

(二) 低次倍音が強い音色

基音に対し第二倍音（基音の二倍
の周波数）・第三倍音（基音の三倍
の周波数）・第四倍音のような最初の方
の倍音が強くそれ以降の倍音が弱い
タイプの音色をさします。低次倍音

は完全8度や完全5度間隔で構成されていますので、この音色は澄んだ、軽い印象になります。ピアノが代表的な音色でしょう。

(三)高次倍音が強い音色

基音に対し第九倍音・第十倍音・第十一倍音のような、より高い方の倍音が強く最初の方の倍音は弱いタイプの音色をさします。高次倍音は長2度や短2度間隔が中心になるので当然その部分が強いと濁った感じ、奥行きのある、音域によっては重い印象の音色になります。弦楽器が代表的な音色でしょう。

(四)独特の倍音構成を持つ音色

基音に対し、第三倍音・第五倍音……と奇数次倍音が鳴る、クラリネットに代表されるパターンを持つ音色です。その他にも特定の箇所だけ倍音要素が弱かったり、強かったりと言った独特の性質を持つ楽器は数多くあります。「少し変わった音色だな」と言う印象を持つ楽器は、大抵この倍音構成をもつ音色になります。

2. 形成音

「形成音」とは、楽器の音に対して持っているイメージを指す言葉になります。人間が生活経験を重ねていく間に、最初は母親の声、父親や家族の声、家の中の音など、音への記憶が蓄積されていきます。同様に

楽器の音に対してもイメージが形成されていきます。私がいくらトランペットは静かで滑らかな弦楽器の様な音も出せると言っても、音楽経験の少ない人はファンファーレの様な音、音量の大きい音、鋭い音のイメージから離れられないのです。実際に鳴らしているのは低中音域であっても、なぜかトランペットの音色は甲高いイメージを持たれます。これはトランペットの形成音が高音域に存在するからです。だからトランペットで低音域を鳴らしても、その高次倍音である高音域の音を人の耳は無意識に聞き取ってしまいます。そしてその高音域が別の楽器等の音によってマスキングされてしまうと、元の音である低音域は別の楽器音として聴き取られてしまうことが起きるので。

3. 弦楽器の音色

弦楽器(ヴァイオリン属)の音色の特徴は高次倍音強調型で形成音がないこと。そして、非常に豊かで安定した倍音を持つていることです。ヴァイオリンからコントラバスまで全て同じ性質の音色を持っています。倍音が豊かだからオーボエと同様に埋もれにくく、形成音もないので非常にマスキングされにくい音色です。しかし、同じ性質の音色をもつ他の弦楽器の音色には簡単にマスキングされてしまうことになり、特に、

ピオラはヴァイオリンに消されやすくなっています。低音域で基音が弱いとが出ないと言う問題は起こりません。その為、低音楽器同士が同じような音量で重なった場合は、コントラバスが勝って他の楽器はマスキングされてしまうことが起きます。

4. 打楽器の音色

打楽器は大きく二種類に分かれます。音が鳴るだけで明確な高さの音を鳴らせないものと、他の楽器と同じように音階が演奏できるもの。前者は小太鼓や大太鼓に代表されるドラム類、後者には木琴や鉄琴等があります。楽典的には前者は噪音、後者は楽音を鳴らす楽器です。当然管弦楽上も両者の扱いは異なります。

(一)ドラム属

太鼓やシンバル、タム、タンバリン。現在で言うドラムに相当するグループです。胴に張られた皮幕を叩く楽音を鳴らせない打楽器はこの仲間に入り、音色は乾いた軽い音に特徴があります。ドラム属は特定の楽器を専門に演奏すると言うよりは、楽曲に合わせて様々なドラムに持ち替えて演奏されます。また、標準的なもの以外であっても、作曲家が使いたいと思えばそのドラム属の楽器を加えることも多く見られます。ドラム属は基本的にどんな楽器でも、編成に加えて特に問題は生じません。

また、騒音系のパーカッションの種類は無限に広がることになります。

(二)噪音の和音的性質

ドラムはどうしてどんな和音とも親和性があるのでしょうか。その原因は噪音の持つ性質にあり、どの様な演奏スタイルでも同じことが起きます。噪音とは、特定できる音程の楽音が鳴っていない音ではなく、全ての周波数の音が一齐に鳴っている音なのです。全ての音が一齐に鳴っているから音程が特定できないのです。そうした特質の噪音を和音と一緒に鳴らしたらどうなるのでしょうか。

C・E・Gの和音+噪音、噪音には当然C・E・Gの各音も含まれていますから、C・E・Gの和音に誘導されて噪音もC・E・Gに聴こえます。G・H・Dの和音+噪音では、噪音には当然G・H・Dの各音も含まれていますから、この場合も同様に噪音もG・H・Dに聴こえます。どの周波数帯の音も均質に持っている噪音は、他の音と一緒に鳴らすとその音に誘導されて勝手に協和しているように聴こえてしまいます。そのため、どんな和音進行であっても途中で転調しても、ドラムの音は常に協和して聴こえるのです。

しかし、そんな噪音にも問題点はあります。一旦、C・E・Gと聴こえた噪音はC・E・G以外に変わることはありません。C・E・Gの和

音とシンバルを同時に鳴らし残響が響いている間に、新しくG・H・Dの和音を鳴らしても、シンバルの残響は新しいG・H・Dとは協和せず、解決しない掛留音の様に浮いている感じに聴こえます。

その為に、ある和音と同時に噪音が鳴っている最中に後から別の和音が鳴ると、不協和な雰囲気になってしまいます、こうした場合は古い噪音を止める(残響を消す)か、新しい和音と同時に新しい噪音も鳴らす(もう一発叩く)か、の処理が必要になります。

(三)ティンパニー

基本的に、音色は乾いた軽い音ですが、調律された楽音を鳴らせると同時に、噪音的要素も音の成分としてもつています。古くからオーケストラの打楽器群ではベースになる楽器として、リズムを示すと共に、和音を支える打楽器として使われてきました。基本的には演奏する曲の主音と属音に合わせて調律し、その二音でドラム的なリズム重視の演奏に使われて来ました。現在はペダルや使う台数を増やし、旋律を演奏することも可能となっています。

(四)鍵盤楽器等

これらは楽音を奏でられる打楽器になり、音色としては音が軽くて他の楽器の音に埋もれやすい性質をもつ

ています。またこのグループは楽音を出せる打楽器ですが、どの楽器もまだ多少噪音的性質を残しています。鍵盤やチューブを叩く音も音の一部になるからです。そのため、管楽器や弦楽器等と比べると多少他の和音に引きずられていく打楽器的な性質がわずかに残り、多少不協和な音を鳴らしても協和して聞こえてしまう性質をもっています。



事務局から

総会開催のお知らせ

日時 二十四年四月十五日(日)

・総会 十五時
・懇親会 十七時

場所 中村屋旅館

札幌市中央区

北三条西七丁目

懇親会会費

四千円(懇親会参加者のみ)

編集余録

・先日、ホルンレッスンを受ける為に某楽器店のレッスンスルームに入ったら、隣の部屋から拙いホルンの音が聞こえてきたのでソツと覗いて見ました。なんと、小学生とおぼしき小さな子がホルンを抱き抱えるように、先生の前で吹いていました。最近、小中高の多感な時に吹奏楽等で合奏の経験も無しに、音大を目指して楽器のレッスンのみを受ける子供が増えているのだそうです。ちよつと可哀想な気もします。

(伊藤)

「なりたいた自分の姿を思い描く」ある本の一説です。常に思い続けていると現実になる。

この春、新たに願いが一つ現実になります。

80歳まで楽器吹きたい。そんな願いもいつか実現出来る!そう信じて進もう。(石田)

・少しずつではありますが、春の訪れを感じる季節になってきました。寒さが緩むと、体育館での練習もしやすくなってきますね。また、今年の定期演奏会の曲目も大体決定してきましたので、今年の曲を楽しみながら、練習と合奏に力を入れていきたいと思えます。(池内)

・今年は全国的に大雪の年と言われておりましたが、3月上旬現在の札幌は雪解けが早いような気がして、春を感じる日も多くなりました。外は埃っぽい時期になりますが、春の陽射しはやはり気持ちがいいですね!

もうすぐ年度が変わりますが、普段の生活の中で学生時代のような切り替わりを感じることはなくなりました。ですが自分なりに気持ちを新たに前に進んで行きたいなと思えました。(長土居)



第3回 シルバーハイツ・ロビーコンサート

平成24年2月11日(土)



演奏曲

行進曲「美中の美」
ワルツ「女学生」
「ブルー・タンゴ」
「地上の星」
「マイ・ウェイ」
「ひばりメドレー」
「上を向いて歩こう」